

人のため未来のために ドローン人口を増やす



株式会社東北ドローン

代表取締役 / 桐生 俊輔

所在地 / 宮城県仙台市泉区黒松1-9-9
丸栄黒松コーポ101

T E L / 022-765-1421

事業
テーマ

【平成29年度補正】

風力発電施設や送電線等の点検を
無人航空機（ドローン）で行うサービスの展開



風力発電施設点検用のドローンとカメラ



風力発電施設の点検は、高所作業で危険が伴う

株式会社東北ドローン 代表取締役 桐生 俊輔 氏

信条 金はないけど大義はある

会社の強みは何ですか？



現場の方々と仕事をさせていただくことで、ドローンに詳しい我々と産業利用を行う企業や団体と一緒に技術や利用法を生み出していけること。今後は風力発電だけでなく、様々なインフラへ広げていける仕事です。

仕事のやりがいを教えてください。



まだ世の中にないものを、今やっているんだと感じていることです。ドローンはまだ危ないとか悪者扱いも多いですが、それでも可能性を求めて仕事に繋げて貰ったり、反響があるとやっていて良かったなと思いますね。

これまで見たことのない 映像との出会い

創業は2016年。広告の仕事をしてた時にドローンと出会い、その空撮のクオリティに可能性を感じてスタートした。メインの事業は、ドローンを仕事に導入するためのコンサルティングと育成事業。ドローンの販売から操作方法、飛行許可の申請方法の指導など、ドローンの普及を幅広く手掛けている。ビジネスでのドローンの活用について、相談に乗り、各業界の専門家の話を聞くうちに、土木系や産業系の現場と関わるようになった。

技術の進化と知恵で 現場のリスクを回避する

きっかけは創業まもなく、風力発電設備のブレードの点検や保守を人が高所作業で行っている聞いたことだった。高速で回転しているブレードに木の枝や砂などが当たると劣化が進み、また頻繁に落雷するため定期的な点検が必要になる。さらにそういった高所作業を担う人材の高齢化や人材不足が問題になっている。そこでドローンを活用することにより、点検作業



ブレードから15〜20m離れた位置から撮影する。より人の目に近い映像を得るために、操作技術を磨いてきた



人との出会いから、新しい使い方を生み出した

のリスクとコストの低減と効率化が図れると考え、現場に足を運んで研究・開発を進めてきた。ものづくり補助金で購入したのは、強風時でも安定した飛行性能があり、GPS搭載によりホバリング精度が非常に高い産業用のドローン。人の目に近い点検ができるようズームと遠・近の赤外線カメラを搭載している。夜間の点検にも対応可能だ。これで施設の初期点検を行い、撮影された膨大な画像データは、風力発電施設の点検・補修を手掛ける専門事業者が内容を



ドローンに関わる人や企業を増やすことも目標のひとつ

解析・評価し、カルテを作成して顧客へ納品される。「3年間現場と一緒にやってきたからこそできること」と桐生社長は振り返る。

未来のためにドローンを もっとあたり前のものに

今年3月末時点での全国の風力発電施設は約2,250基。2023年頃までに約8,000基に増えるという。人力での点検は1日1基程度だが、ドローンを使えば60〜90分程度で撮影ができ、コストも3分の1に抑えられる。「若い人たちにもこういった現場での仕事が楽になるよう、お手伝いさせて貰っています。もっとドローンを当たり前に使っていく世の中にしたいですね」。



ドローンスクールの講師も引き受けている